

解答速報

聖マリアンナ医科大学 一般前期

英語

1					
[1]	(1) (c)	(2) (b)	(3) (a)	(4) (d)	(5) (b)
[2]	the Japanese wolf				
[3]	(a) 9匹のニホンオオカミと11匹の日本犬				
	(b) (a)で得られた全ての遺伝子情報を、イヌ科の様々な動物の入手可能なゲノムと比較した。				
	(c) ニホンオオカミは他のイヌ科の動物とは異なっていて、独自のグループとして際立っていたことが明らかになった。				
[4]	犬の家畜化が始まったのは、東南アジアなのか北東シベリアなのかという議論がこれまでにあったが、今回のテライの研究によって、そのどちらが正しいかは言えないものの、他の候補地ではないということが立証された。 (100語)				
[5]	dogs				

2				
[1]	[2]	[3]	[4]	
(c)	(c)	(d)	(d) - (b) - (c) - (a) - (f) - (c)	
[5]	[6]	[7]	[8]	
【C】	(d)	(c)	(b)・(e)	

3				
[1]	(1) (a)	(2) (a)	(3) (c)	(4) (c)
[2]	(d)			

1

Science 誌の 2021 年 10 月 21 日付の記事 *Mysterious, extinct Japanese wolf may hold clues to origins of dogs* からの抜粋で、「オオカミの DNA 解析を利用したイヌの起源の特定」に関する英文であった。例年と比べると、かなり記述量が減った。[2]の指示内容特定問題は、the Japanese wolf なのか this wolf でもいいのか、[4]の指示内容特定問題は、dogs でいいのか modern dogs とすべきなのか、悩ましいところである。記述説明問題はどれも、該当箇所を特定することが簡単であった。

2

Science News Explores の 2023 年 2 月 13 日付の記事 *Protecting forests may help head off future pandemics* からの抜粋で、「食料不足が原因で生息地を追われた動物からの種を越えた感染症の伝播」を述べる英文であった。例年の聖マリアンナ医科大学の出題と同じく、全て客観式の問題であった。空所補充系統の問題が多かったが、出題形式も例年と同じと言える。文整序は指示語・ディスコースマーカー・文脈に気を付けることで答えに辿り着くことができる。空所補充は“抽象→具体”という展開を読ませるものや、英文構造から選択肢を消去できるものがあった。この大問は易しめなので、高得点を目指したい。

3

指示された状況に対して、文法・論理・文脈的に正しい文を選ぶ問題。こちらもここ数年連続して出題されている形式である。

大問構成は例年の聖マリアンナ医科大学の出題と同じで、難易度も同じくらいであった。聖マリアンナ医科大学はそもそも時間がタイトな大学だという印象はなかったが、今年度になって記述量が減り、時間内に収めることがさらに容易になった。合格には、70%を目標としたい。



メルマガ登録（無料）または LINE 公式アカウント友だち登録（無料）で全教科閲覧できます！
メルマガ登録は左の QR コードから、LINE 友達登録は右の QR コードから行えます。



<p>渋谷校 ☎ 0120-142-760 東京都渋谷区桜丘町 6-2</p>	<p>名古屋校 ☎ 0120-148-959 名古屋市中村区名駅 2-41-5 CK20 名駅前ビル 2F</p>	<p>大阪校 ☎ 0120-142-767 大阪府吹田市広芝町 4-3-4 江坂第 1 ビル 3F</p>
<p>個別専門館 麴町校 TEL : 050-1809-4751 東京都千代田区二番町 8-20</p>	<p>ビッグバン京都校 TEL : 075-746-4985 京都市下京区下諏訪町 360</p>	<p>医特塾 阿佐谷本校 TEL : 03-6279-9927 東京都杉並区阿佐谷南 3-37-2 第二大同ビル 2F</p>